



久留米市セーフコミュニティ DV防止対策委員会

発表日 2022年12月21日
発表者 DV防止対策委員会
委員長 平岡 靖治



みんなで取り組む安全安心まちづくり

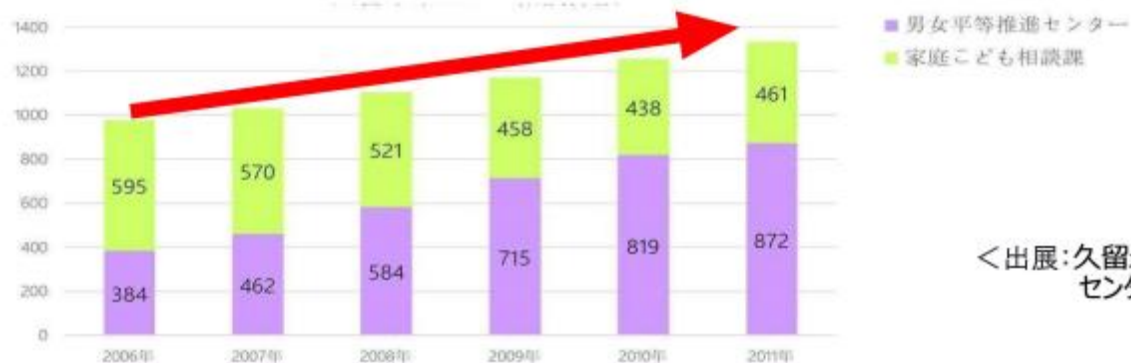
1-1. DV防止対策委員会の設置の背景

＜図表1＞ パートナーから何らかの暴力を受けた経験について



＜出展：久留米市男女平等に関する
市民意識調査（2009年8月）＞

＜図表2＞ 久留米市におけるDV相談件数



＜出展：久留米市男女平等推進
センター統計＞

★客観的データ

＜2011年取り組み開始時＞

当時

・ パートナーから何らかの暴力を受けたことがある女性は、国が約3割、久留米市は約半数

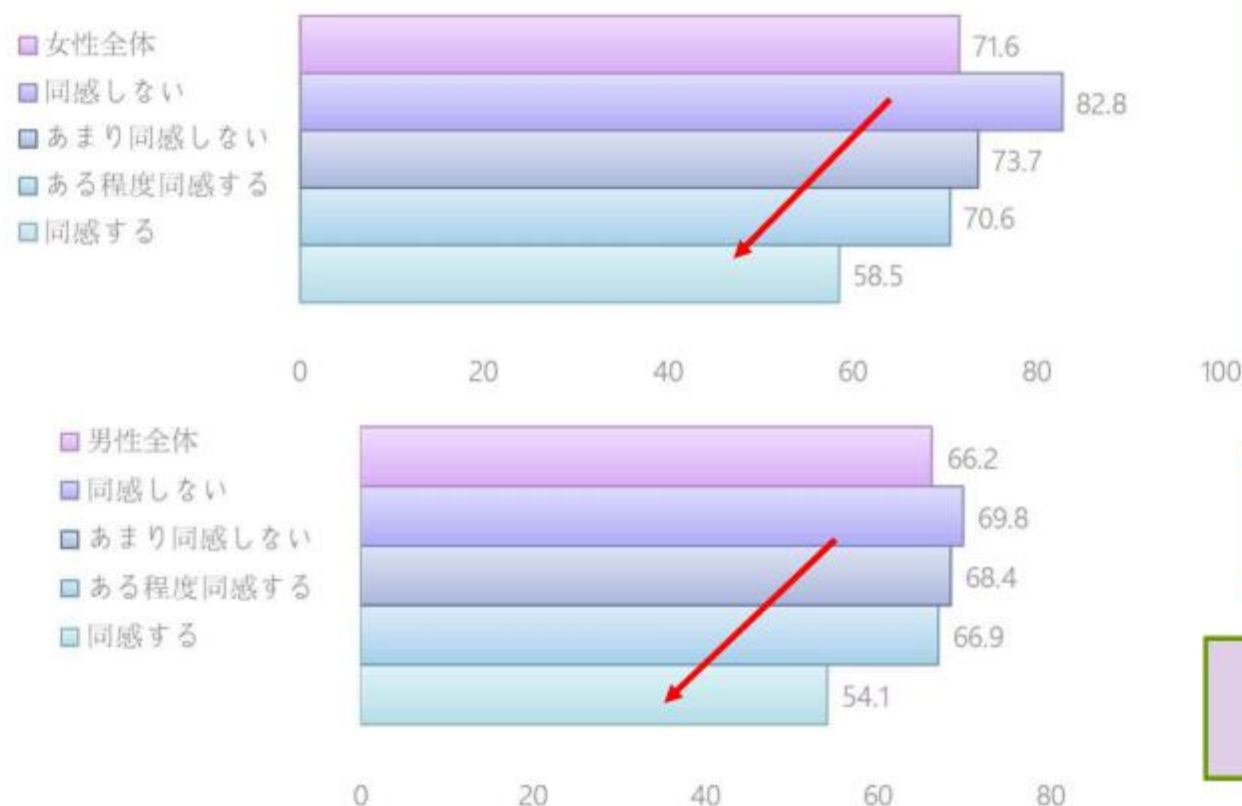
・ DV相談件数も年々増加

DVを減らすため
取り組みの強化が必要

セーフコミュニティで
DV被害の予防を！

1-2. DV防止対策委員会の設置の背景

＜図表3＞ 「男は仕事、女は家庭」への考え方



★主観的データ

＜2011年取り組み開始時＞

「男は仕事、女は家庭」
という考え方の人は
DVを人権侵害と認識していない

DVの発生の背景に固定的
性別役割分担意識がある！

DVを減らすため
啓発の強化が必要

2012年(H24)3月
DV防止対策委員会設置

出典：久留米市男女平等に関する市民意識調査(2009年8月)

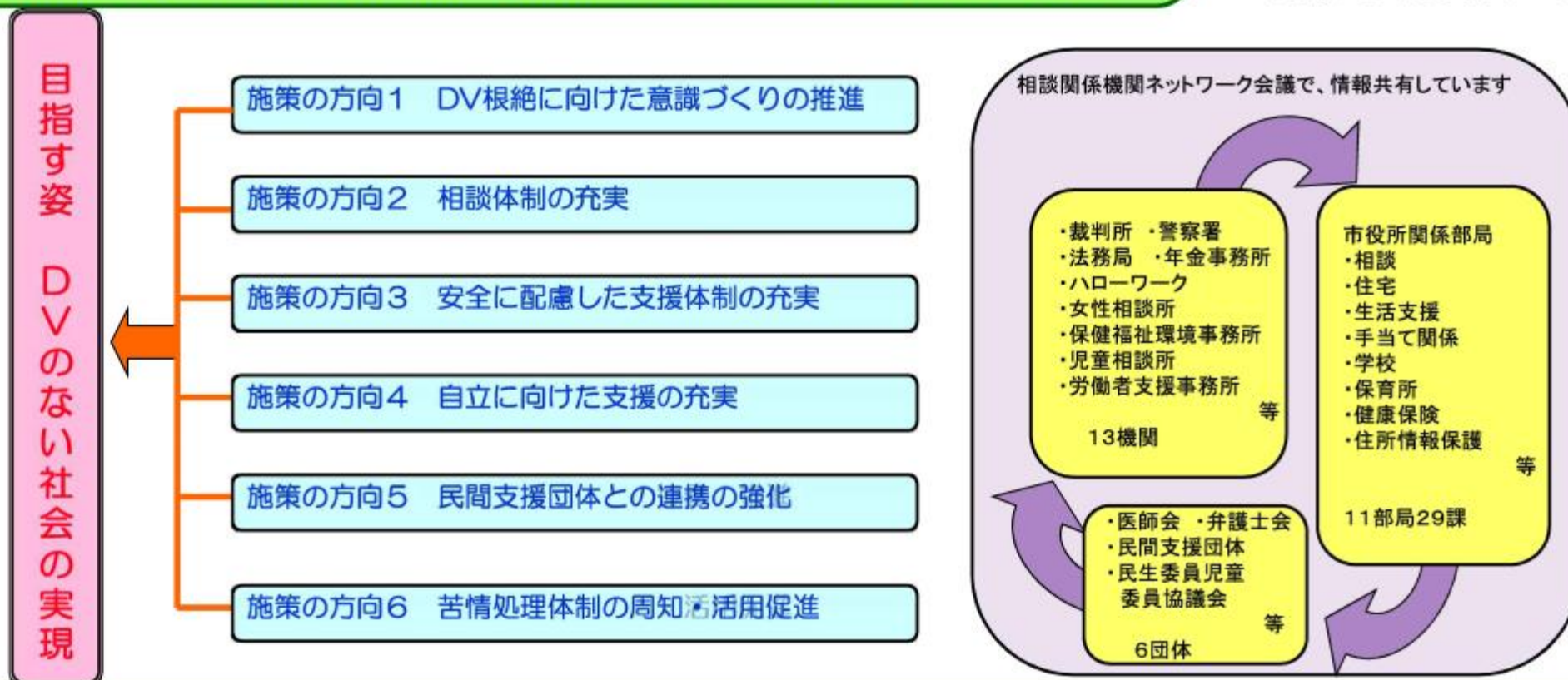
1-3. DV防止対策委員会の設置の背景

久留米市は、認証取得前から関係機関・団体とのネットワークを構築しDV対策に積極的に取り組む！！

久留米市DV対策基本計画の体系 久留米市DV対策基本計画(2010～2014)

<図表4>

DV対策におけるネットワークの流れ



2-1.D V防止対策委員会の構成メンバー 2022年度

区分		所属
民間団体	1	(一社)久留米医師会
	2	福岡県弁護士会筑後部会
	3	民生委員児童委員協議会
	4	小・中学校PTA連合協議会
	5	校区まちづくり連絡協議会
	6	民間支援団体
	7	民間支援団体
	8	民間支援団体
	9	民間支援団体

区分		所属
関係機関	10	久留米警察署（生活安全課長）
	11	久留米警察署（総務第二課長）
行政機関	12	健康福祉部保健所地域保健課
	13	子ども未来部家庭子ども相談課
	14	教育部学校教育課
	15	協働推進部男女平等推進センター

より地域の意見を反映するため、2019年8月に、
No3,4,5の委員を追加

3-1.データに基づく課題

＜図表5＞ 久留米市におけるDVを主訴とする相談件数の推移

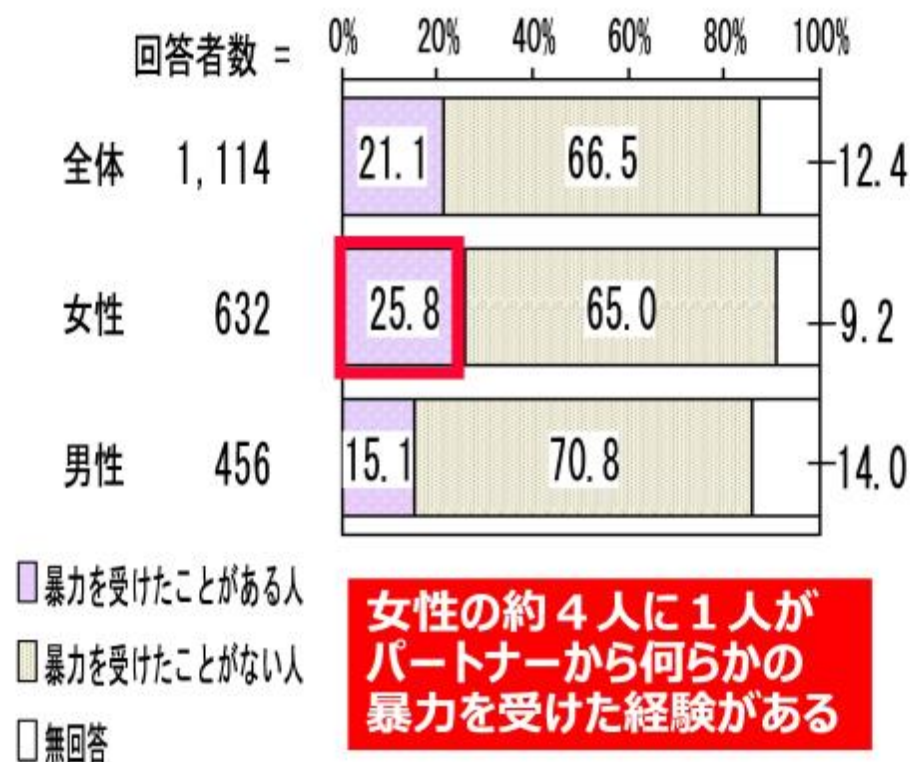


**D V 相談件数は
増加傾向**

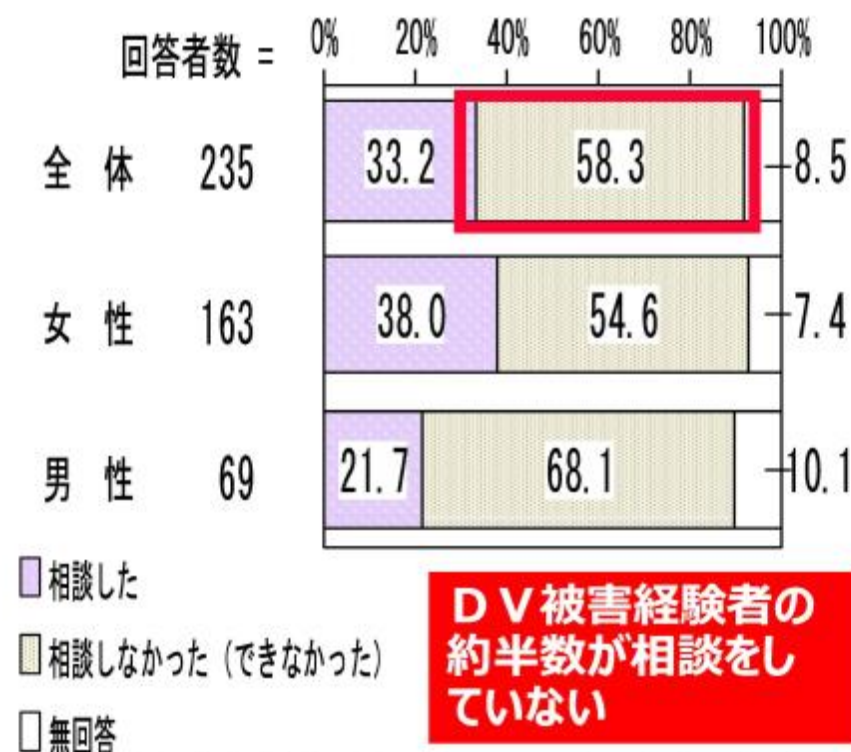
出典：久留米市男女平等推進センター統計

3-2.データに基づく課題

＜図表6＞暴力を受けた経験



＜図表7＞被害後の相談状況



出典：久留米市男女平等に関する市民意識調査（2019年）

3-3.データに基づく課題

＜図表8＞「固定的性別役割分担意識」と「DVを人権侵害だと思う人」の相関関係

固定的性別役割分担意識 「男は仕事、女は家庭」の考え方		DVを人権侵害だと思 う人の割合
同感しない	66.1%	79.2%
あまり同感しない		71.9%
ある程度同感する	31.2%	69.6%
同感する		65.7%

最大13.5
ポイントの差

「男は仕事、女は家庭」
という考え方に同感している人は
DVを人権侵害と認識していない
最大13.5ポイントの差

DVの発生の背景に
固定的性別役割分担意識
がある！

出典：久留米市男女平等に関する市民意識調査（2019年）

4-1.課題解決のための目標と具体的施策



5.レベル別の対策（具体的施策）

<図表9>

目標	対 策			
	分野	国県レベル	市レベル	地域レベル
DVを 容認しない 意識づくり	教育・ 啓発	・国：女性に対する暴力の予防と暴力根絶のための基盤づくり、 配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進事業 ・県：誰もが安全・安心に暮らせる社会の実現事業	・DV防止に関する主催講座、出前講座 等の実施 ・デートDV防止啓発講座の実施 ・職務関係者への研修	・講座の開催及び参加 ・相談窓口の紹介
	規制	・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 ・福岡県男女共同参画推進条例	久留米市男女平等を進める条例	
	環境整備	・第5次男女共同参画基本計画 ・第5次福岡県男女共同参画計画 ・第4次福岡県配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する基本計画	・第4次久留米市男女共同参画行動計画 ・第3次久留米市DV対策基本計画	

対策委員会→6-1,6-3
 ・研修の主催及び参加
 ・講座の実施
 ・パープルリボンキャンペーンの実施

5.レベル別の対策（具体的施策）

<図表10>

目標	対 策			
	分野	国県レベル	市レベル	地域レベル
早期発見と 支援に つなげる 体制づくり	教育・ 啓発	・国：女性に対する暴力の予防と暴力根絶のための基盤づくり、 配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進事業 ・県：誰もが安全・安心に暮らせる社会の実現事業	・庁内ネットワーク会議 ・相談関係機関ネットワーク会議 ・相談員研修 ・職務関係者への研修	・研修の開催及び参加 ・相談窓口の紹介
	規制	・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 ・福岡県男女共同参画推進条例	・久留米市男女平等を進める条例	
	環境整備	・第5次男女共同参画基本計画 ・第5次福岡県男女共同参画計画 ・第4次福岡県配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する基本計画	・相談事業の実施、相談窓口の周知 ・第4次久留米市男女共同参画行動計画 ・第3次久留米市DV対策基本計画	・DV防止カードの設置

対策委員会→6-2,6-4
・相談窓口の普及啓発
・職務関係者への研修

対策委員→6-1
・DV防止カードの設置
・相談窓口の普及啓発

6-1-1. 取り組み事例・成果

① 男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実

市民に対し、男女共同参画講座やDV予防研修を実施

5年間(2017-2021) 400回の講座 のべ12,895人が受講

9割強の方が、参考になったと回答

※セーフコミュニティDV防止対策委員会アンケートによる



6-1-2.取り組み事例・成果

①男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実

＜図表11＞

指標	内容	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	学校、機関・団体へ啓発講座や予防教育を実施した講座数、受講者数	回	96	106	90	42	66
		人	3,249	3,722	3,147	1,191	1,586
短期成果	受講者の意識「参考になった」と回答した人の割合〔アンケート調査〕	%	90.3	89.1	90.7	94.2	95.0

指標	内容	単位	2009年	2014年	2019年
長期成果	①性別役割分担意識に同感しない人の割合	%	46.5	53.4	66.1
	②DVを女性への人権侵害と思う人の割合	%	69.3	81.0	75.2
	③DVを受けたことのある人の割合	%	39.3	25.5	21.1

久留米市男女平等に関する意識調査（5年毎）

6-2-1. 取り組み事例・成果

②教育現場等における予防教育の充実

若いうちから暴力を容認しない意識を醸成するため、対策委員会の取組で、中学生・高校生・大学生にデートDV防止啓発講座を実施

5年間(2017-2021) のべ 39校 140回 5,755人が受講



マンガで「デートDV」を紹介

6-2-2.取り組み事例・成果

②教育現場等における予防教育の充実

＜図表12＞

指標	内容	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	デートDV防止啓発講座の実施校数、実施回数、受講者数	回	9校33回	11校34回	9校34回	3校19回	7校20回
		人	1,298	1,715	1,153	523	1066
短期成果	「デートDVが理解できた」と回答した人の割合[デートDV防止啓発講座アンケート]	%	97.7	98.6	98.7	99.4	95.1

指標	内容	単位	2009年	2014年	2019年
長期成果	①性別役割分担意識に同感しない人の割合	%	46.5	53.4	66.1
	②DVを女性への人権侵害と思う人の割合	%	69.3	81.0	75.2
	③DVを受けたことのある人の割合	%	39.3	25.5	21.1

久留米市男女平等に関する意識調査（5年毎）

6-3-1. 取り組み事例・成果

③ パープルリボンキャンペーンの実施

DV等女性に対する暴力を容認しない意識を醸成するため、
対策委員会でパープルキャンペーンを通じて
パープルリボンの普及啓発を図る

5年間(2017-2021) のべ 1,936人が参加！



オレンジ＆パープルリボンで児童虐待防止対策委員会と連携、講座等で市民に配布



くろめフォーラムで、パープルツリーを作製



子どもたちも！



6-3-2.取り組み事例・成果

③パープルリボンキャンペーンの実施

<図表13>

指標	内容	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	活動の実施回数、参加人数	回	3	4	7	4	4
		人	428	525	567	267	149
短期成果	「DVが理解できた」と回答した人割合 [アンケート調査による]	%	100.0	100.0	100.0	100.0	86.4
中期成果	DVの予防・早期発見のために取り組んでいる人の割合[DV防止対策委員会アンケート調査]	%	39.1	22.3	26.4	42.1	28.9

指標	内容	単位	2009年	2014年	2019年
長期成果	①性別役割分担意識に同感しない人の割合	%	46.5	53.4	66.1
	②DVを女性への人権侵害と思う人の割合	%	69.3	81.0	75.2
	③DVを受けたことのある人の割合	%	39.3	25.5	21.1

久留米市男女平等に関する意識調査（5年毎）

6-4-1. 取り組み事例・成果

④ 医療関係者に対する研修の強化

対策委員会の取組で、医療関係者へマニュアルを活用し、DV被害者の早期発見とその際の対応の研修を実施

5年間(2017-2021) のべ8団体 714人が受講



マニュアルを活用しながら
医療関係者に研修



DV対策に係る医療機関の取組に関する調査

DV対策に取り組む医療機関

79件
33.6%

【2015年】

47件
32.9%

【2021年】

医療機関から相談機関へ
つながったケース

14件

【2017年】

14件

【2021年】

6-4-2. 取り組み事例・成果

④ 医療関係者に対する研修の強化

＜図表14＞

指標	内容	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	研修実施機関・団体数、受講者数	団体	1	2	3	0	2
		人	52	147	277	0	238
短期 成果	取り組みを行う医療機関の数 [DV対策に関する調査(5年毎)]※	機関 %	-	-	-	-	47 (32.9%)
中期 成果	今後何らかの取組を検討している医療機関の 数[DV対策に関する調査(5年毎)]※	機関 %	-	-	-	-	43 (30.1%)
長期 成果	医療機関から繋がった相談者数 [男女センター、家子相談課へ繋がった数]	件	14	12	22	27	14

※「DV対策に関する調査（5年毎）」は、医療機関を対象とした調査であり、2020年に実施することとなっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、医療機関に対する負担を考慮し、2021年に実施

6-5-1. 取り組み事例・成果

⑤子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実

子どもの様子から、DV被害を早期発見し、その後の支援につなげるため、対策委員会として、保育士・小学校教諭・民生委員・児童委員等に、DV問題の理解を促す研修を実施

5年間(2017-2021)

15団体 18回開催

のべ 1,107人受講



受講者の全員が、
DVの理解ができたと回答

100%

学校や保健所等から
相談機関へつながった相談者数

63人

【2017～2021年】

6-5-2.取り組み事例・成果

⑤子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実 <図表15>

指標	内容	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	研修実施機関・団体数、受講者数	団体	6	5	3	0	1
		人	361	588	146	0	12
短期 成果	「DVが理解できた」と回答した人割合 [アンケート調査による]	%	100.0	100.0	100.0	-	100.0
中期 成果	DVの予防・早期発見のために取り組んでいる 人の割合[DV防止対策委員会アンケート調査]※	%	39.1	22.3	26.4	42.1	28.9
長期 成果	学校等、保健所から繋がった相談者数 [男女センター、家子相談課へ繋がった数]	人	4	8	12	12	27

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当該アンケート調査を実施する講座・講演等の多くが中止となった
よって、指標の数値は、パープルリボンキャンペーンにおけるDV関連講演（1回実施）でのアンケート調査結果のみ

7. 新型コロナウイルス感染拡大状況下での対応

SNS等を活用した新たな啓発活動

- ・コロナ状況下でDVが増えたことを受け、相談窓口の周知に力を入れるため、市公式LINEやくーみんテレビなどで広報を拡大

録画配信などでの研修

- ・これまでのように集団での研修が難しい状況なので、録画配信できる教材を作成し配信（医療従事者向けDV対応研修など）

感染対策を行い講座実施

- ・デートDV防止啓発講座はグループワークが必須であり、生徒一人ひとりにフェイスガードを配付して十分な感染対策で実施

コロナの状況下でも歩みをとめることなく、動画研修を提供



8-1.取り組みによる全体的な成果

相談窓口の周知が図られ、相談件数は増加傾向！

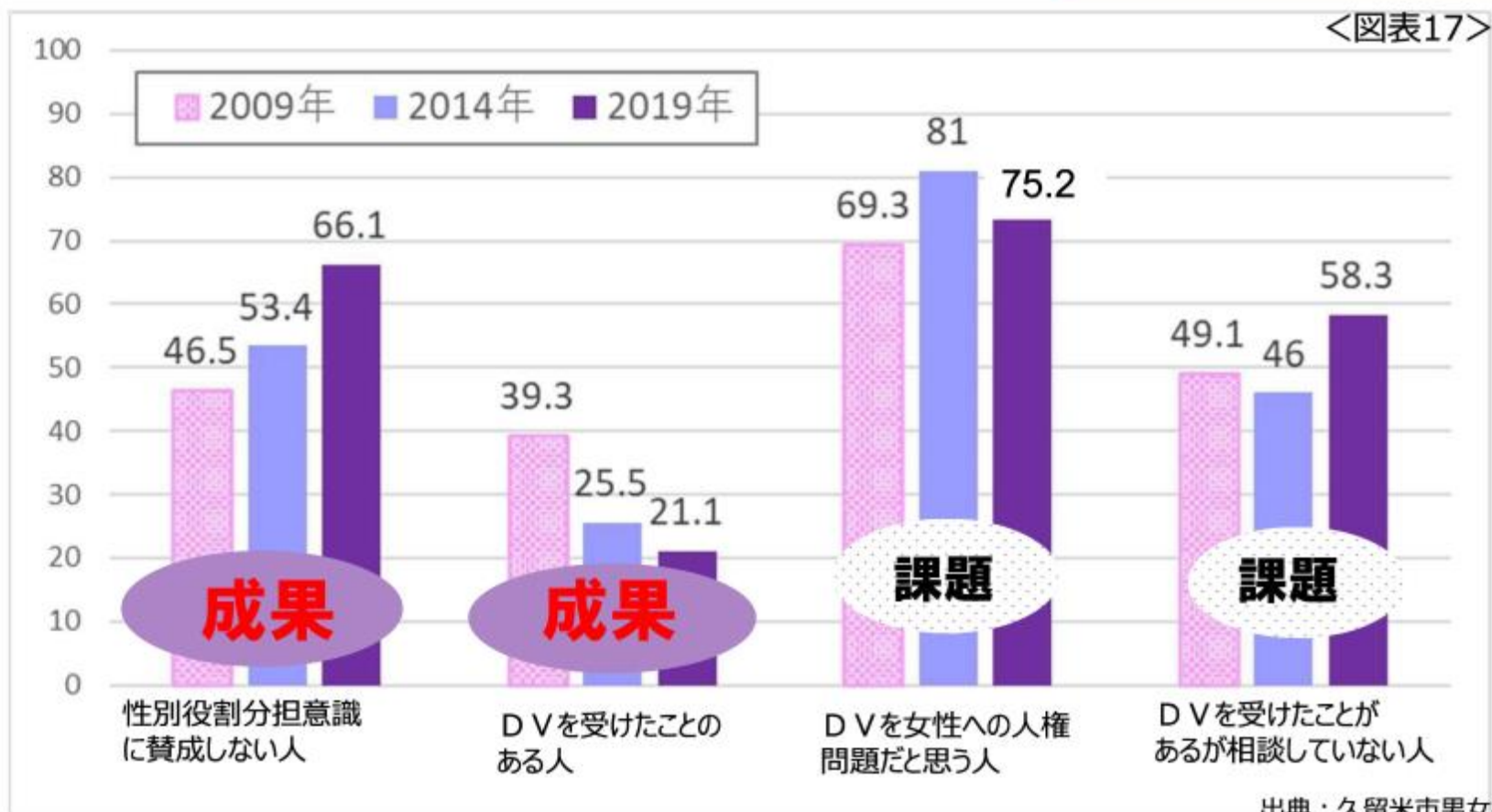
＜図表16＞ 久留米市における主訴がDVの相談件数の推移



出典：久留米市男女平等推進センター統計

8-2. 取り組みによる全体的な成果

取り組み成果の表れ



9.再認証取得後の変化

- 市民の意識向上
- 相談体制の強化
- 対策委員会間の連携強化



10.課題と今後の対応

1 DVの発生防止

- 【現状】 ・「固定的性別役割分担意識に同感しない人」の割合 → 66.1%
・「DVを人権侵害だと認識する人」の割合 → 73.2%
・「暴力防止のための教育・啓発の推進」を望む声 → 45.4%

⇒ だれもがDV防止の正しい理解を深めることが重要である
(特に若い世代への啓発)

2 DV被害者を相談へつなぐ体制の確立

- 【現状】 ・相談内容 → 複雑化・深刻化
・相談件数 → 増加
・相談できない人 → 58.3%

⇒ 多様な相談体制が必要である

⇒ 関係機関との連携強化により、相談につなぐ体制の充実を図る必要がある

ご清聴ありがとうございました。



D V 防止対策委員会